

第2回検討会 作業シート | 文化芸術編

今後の課題 | 各部会から出された課題・意見を要約して掲載しています。

【テーマ（１） 板橋らしい文化（ブランド力）の強化】	【テーマ（２） 開かれた文化施設の推進】
<div>①中央図書館の新設や絵本のまちは区民の認知度も上がっているすばらしい活動。絵本は子どもから大人もみんな親しみを持っており、さらにブランド化すると良い。障がい者の方に点字絵本・さわる絵本もあると良い。</div> <div>②カナダ・バーリントンとの周年交流では、伝統工芸品をお土産に持っていき大変好評だった。ぜひ、他の都市との交流でも活用してほしい。</div> <div>③「絵本×伝統工芸品」など複数の文化的要素を掛け合わせてやると絵本から伝統工芸品へとそれぞれの魅力がさらに広がる。</div> <div>④絵本を一つのツールとして活用し、区在住アーティストやボローニャ原画展入選者等を絵本づくりに起用してつなげていくと、絵本のまちのブランドもさらに強化される。</div> <div>⑤人が多く来る場所で伝統工芸展を開催すると認知度も上がるし、発信にもつながる。昨年度、伝統工芸品に関する本を出版したが、多言語化すると海外へもアピールできて良い。</div> <div>⑥地域の資源、伝統工芸品も含め、その土地で育まれたものに着目することは、ブランド力を推進する上で一番大事。それをうまく活性化させるのは人的なネットワークが必要。</div> <div>⑦すごく良いものでも知らなければ興味も湧かない。SNS等を活用してもなかなか届かない。やらないよりは良いがどのようにPRを行っていくかが課題。</div> <div>⑧スマートフォンが普及し、伝統工芸の体験動画を見ただけで体験したつもりになり、実際の体験につながらない。学校授業の中で触る体験や工芸展を見に行くのも良い。</div> <div>⑨PRは関わる人や発信元を増やし、露出を高めて、複数の場所や部署で同時多発的にアピールするとうまくいく。子どもをうまく巻き込むとさらに効果的。</div> <div>⑩板橋区の特徴は、印刷・製本を含め、区内で絵本づくりのすべてができること。全国で絵本のまちのような活動をしている自治体と共同して、絵本でいろいろな問題をアピールする取組の音頭取りを区が担うと全国的にも絵本のまちをアピールできるのではないかな。</div>	<div>①文化会館小ホールに関しては、楽屋に向かう時に階段があったり、ロビーでお見送りや挨拶をするのは舞台から車いすで移動するには一つ上の階に移動して迂回するなど、利用者側のバリアフリーは進んでいるが、障がい者や高齢の出演者側からすると動線が不便。</div> <div>②文化会館大ホールは利用者からの評価は高い。小ホールは客席と舞台が近く見やすく、使いやすい。民間では大ホール規模のホールがあまりない。一方で区には中規模級のホールがない。</div> <div>③文化会館1階のガラスは外から見ると黒くて暗いため、中に入りづらい雰囲気がある。暑い日などは入口の広場にパラソルを置いて休憩スペースや「本日開放日、誰でも中に入れます。」といったのぼり旗があれば気軽に休憩で立ち寄りやすくなるのではないかな。</div> <div>④文化会館には赤ちゃんの駅がないので、ロビー開放日にはのぼりに加えて、赤ちゃんの駅を臨時で設置すると子ども連れの親子も来てくれるのではないかな。</div> <div>⑤毎年、生まれた赤ちゃんを無料招待するコンサートやワンコインで見られる赤ちゃん連れコンサートなどがあると良い。「子どもに優しい、未就学児を育てる家族に優しい板橋区」が一番重要。</div> <div>⑥来館のきっかけとして、赤ちゃんに特化したイベントがあると良い。</div> <div>⑦区民がものづくりや文化体験などで多くの人が集まり、参加できる体験イベント等を区が企画してくれると区の文化が盛り上がる。区は場所の提供と広報PRを担ってもらえると運営者は活動しやすい。</div>

【検討会の意見】

2030年のあるべき姿 | 概ね5年後の板橋区の文化芸術を見据え、「こうしたまちであってほしい」などのあるべき姿を考えていきます。

- ①身近なところで「絵本のまち板橋」が感じられ、区民のだれもが板橋ブランドとして広く認知し、区外においても認知されている。
- ②「絵本」がきっかけとなり、文化芸術や伝統文化を知り、ふれる人が増えて、文化芸術や伝統文化をより身近に感じている。
- ③子どもたちが学校教育を通じて、文化芸術や伝統文化にふれて・体験することで次代への継承につながっている。
- ④文化施設が開放され、人が集まりにぎわい、誰もが気軽に立ち寄れる場所になっている。

【検討会の意見】

施策の方向性 | 上記の「あるべき姿」や、「未来像」を実現するために、どのような施策のあり方が望ましいか考えていきます。

- ①「絵本のまち板橋」の区内外へのPR強化
企業や大学との連携、複数部署との組織横断的な事業、子どもに関連する事業など、多くの人が関わり、つながることで多角的に情報を発信し、区内外へのPR効果を高めていきます。また、関連事業と一体的にPRすることで「絵本のまち板橋」に関する事業全体の認知度を高めていきます。
- ②異なる文化同士の掛け合わせ
異なる文化同士を掛け合わせることで他の文化芸術・伝統文化を知る機会となり、相乗効果で新たな魅力へつなげ、ブランド力の強化を図ります。
- ③体験機会の創出と充実
子どもが文化芸術や伝統文化を知り、興味が持てるよう、体験・鑑賞する機会などを創出し、認知度の向上や次代継承への取組を推進していきます。
- ④開かれた文化施設への取組推進
くつろげるスペース、一目でわかるサイネージの設置や区民が参加したくなるようなイベント実施など、利用者の視点に立ち、気軽に立ち寄れる文化施設に向けた取組を推進していきます。

【検討会の意見】